

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 10 月 8 日 (2020.10.8)

【公表番号】特表 2019-524865 (P2019-524865A)

【公表日】令和 1 年 9 月 5 日 (2019.9.5)

【年通号数】公開・登録公報 2019-036

【出願番号】特願 2019-511620 (P2019-511620)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/352 (2006.01)

A 6 1 K 31/428 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/14 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/713 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/7105 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 21/02 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/352

A 6 1 K 31/428

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 9/10

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/713

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 K 31/7105

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 P 21/02

A 6 1 P 25/00

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 28 日 (2020.8.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

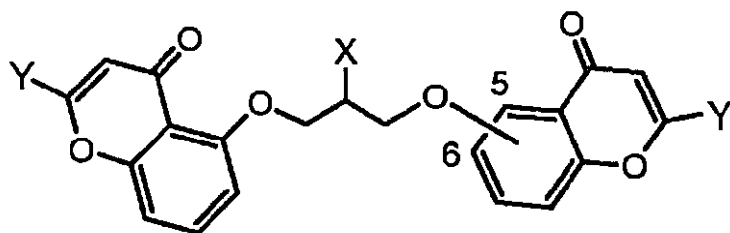
【請求項 1】

ニューロン炎症状態の処置を必要とする患者において前記ニューロン炎症状態を処置す

る方法であって、

以下の式：

【化 1】



上記式において、

Xは、OH, F, または OCOCH_3 であり、

Yは、 CO_2Na , CO_2H , CO_2Et , CH_2OH , $\text{CH}_2\text{OCOCH}_3$, または $\text{CO}_2\text{CH}_2\text{OCO}(\text{CH}_3)_3$ である。

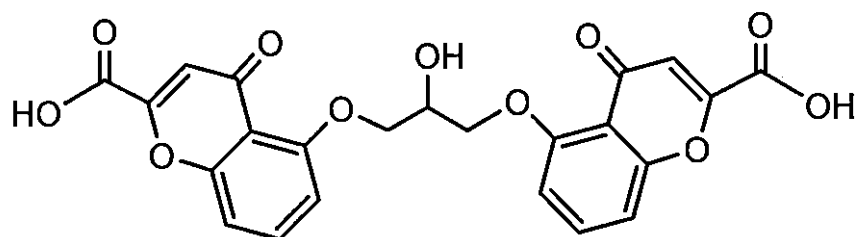
を有する化合物のうち少なくとも1つの前記化合物の治療的有効量を前記患者に投与することを含み、

ただし、前記ニューロン炎症状態がADの場合は、前記化合物がクロモリン二ナトリウム、F-クロモリン二ナトリウム、ET-クロモリンまたはF-ET-クロモリンではない、方法。

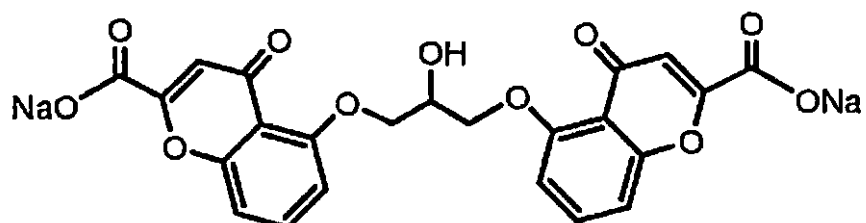
【請求項 2】

前記化合物が下記の式：

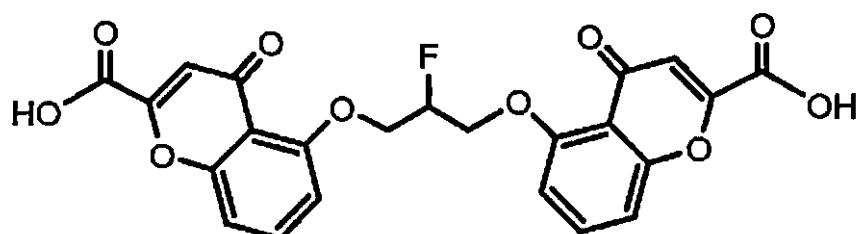
【化 2】



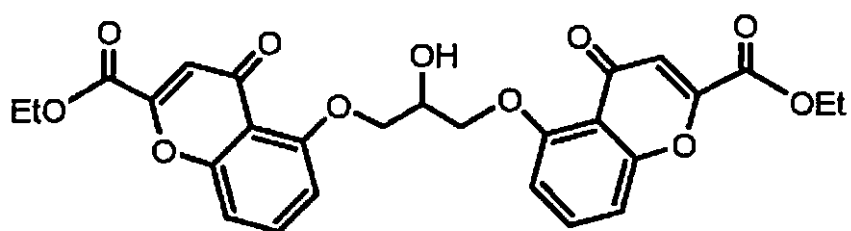
クロモリン；



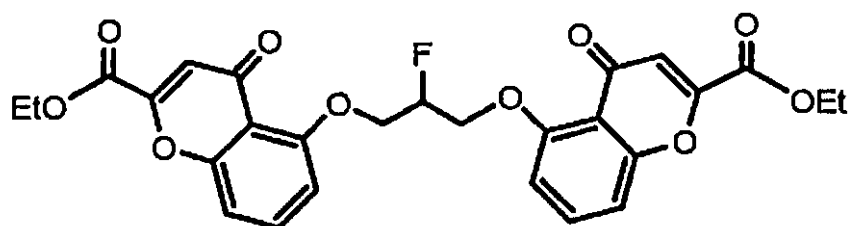
クロモリンニナトリウム；



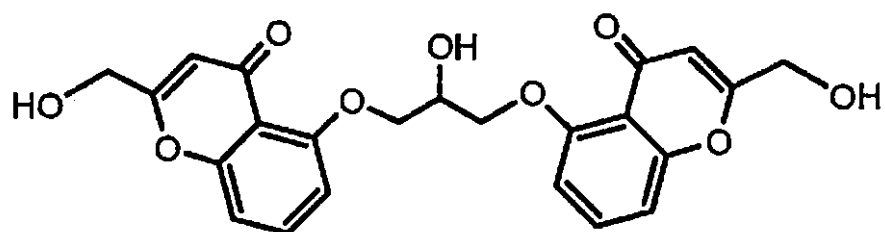
F-クロモリン二酸；



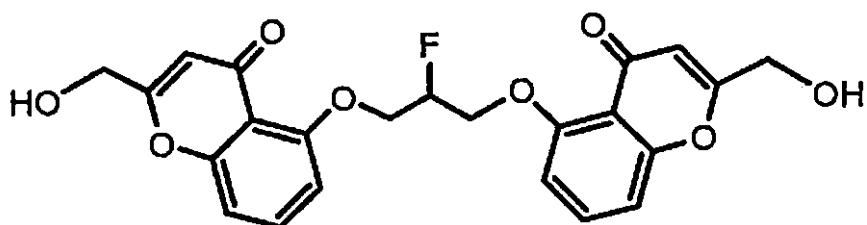
E T-クロモリン；



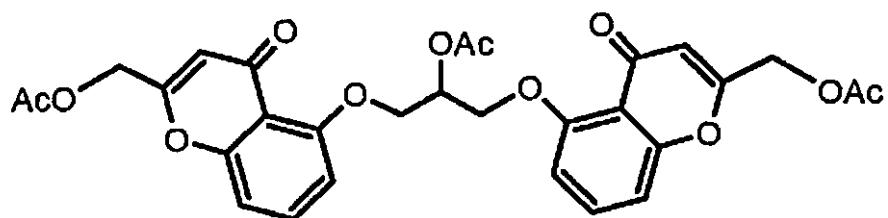
F-E T-クロモリン；



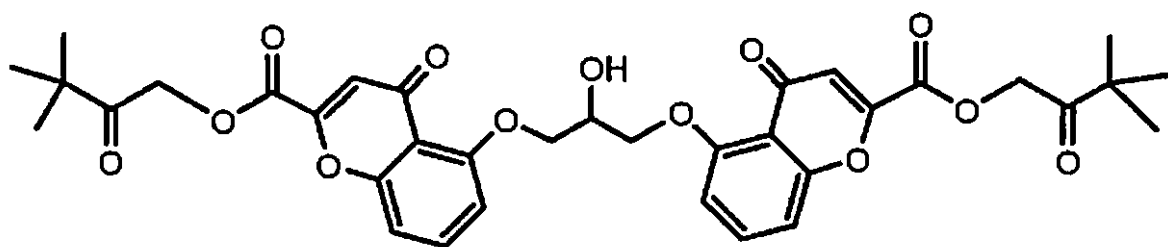
トリオールクロモリン；



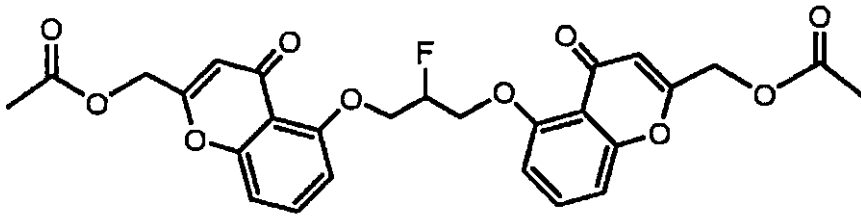
F-トリオールクロモリン；



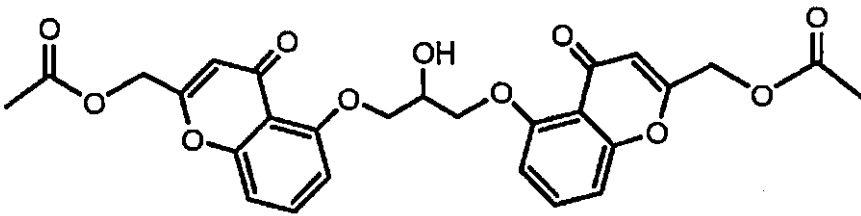
Ac-トリオールクロモリン；



POM-クロモリン；



または



を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記ニューロン炎症状態が筋萎縮性側索硬化症 (ALS)である、請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記ニューロン炎症状態がアルツハイマー病 (AD)である、請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記ニューロン炎症がハンチントン病 (HD) である、請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 6】

前記ニューロン炎症がパーキンソン病 (PD) である、請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 7】

前記ニューロン炎症状態が虚血性脳卒中である、請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 8】

前記ニューロン炎症状態がプリオン病と関連がある、請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 9】

前記化合物が腹腔内に (IP) および / または 静脈内に (IV) 投与される、請求項 1 ~ 8 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 10】

前記化合物が経皮投与される、請求項 1 ~ 8 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 11】

前記化合物が吸入により投与される、請求項 1 ~ 8 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 12】

前記化合物が、1 日あたり約 1 mg ~ 約 1000 mg の用量で投与される、請求項 1 ~ 11 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 13】

前記化合物が 1 日あたり約 10、約 20、約 30、約 50、約 100 または約 500 mg

g の用量で投与される、請求項 1 ~ 11 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 14】

C D 4 + ; s i R N A ; A L S を寛解させる m i R N A ; グリア形態修飾剤 ; S O D 1 制御薬 ; およびリルゾールから選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 1 ~ 3 , 9 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 15】

抗凝固薬および A D に対する標的薬から選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 1 , 2 , 4 , 9 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 16】

A D を寛解させる抗体標的薬から選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 1 , 2 , 4 , 9 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 17】

A D を寛解させる抗炎症標的薬から選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 1 , 2 , 4 , 9 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 18】

A D を寛解させるタウ標的薬から選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 1 , 2 , 4 , 9 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 19】

A L S を寛解させる抗体標的薬から選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 3 , 9 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 20】

A L S を寛解させる抗炎症標的薬から選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 3 , 9 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 21】

アミロイドーシスまたはタウオパチーに関連する神経変性を寛解させる標的薬から選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 1 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。

【請求項 22】

P D を寛解させる シヌクレイン標的薬および P D を寛解させるパーキンソン病の標的薬から選択される第 2 の化合物を同時投与することをさらに含む、請求項 6 , 9 ~ 13 の何れか 1 項に記載の方法。